

介護老人保健施設しおん

症 例 概 要 ご利用者：80代 男性

利用期間：令和4年8月よりしおん入所

病名：右大腿骨転子部骨折、アルツハイマー型認知症、骨粗鬆症、慢性うっ血性心不全、陳旧性心筋梗塞

経過：令和4年6月、自転車に乗っていて転倒し受傷。右大腿部痛の為歩行困難となりA病院へ救急搬送される。右大腿骨転子部骨折の診断で入院となる。全身状態の評価から手術加療は困難な為、保存療法を行った。

内 容

令和4年8月にしおん入所となるが、入所当初は終日オムツ対応、車椅子介助での移動、移乗も患肢は非荷重の指示があった為全介助でした。また持ち込みの褥瘡もあり、臥床時体動が見られない為、2時間おきの体位変換で対応していました。離床時間がほとんどなく、食事が終わるとすぐに居室に戻り横になられていました。食事の方もあまり進まず残食も多かった為、言語聴覚士・栄養課と相談しハーフ食に高カロリー補助食品を付けての提供に変更せざるを得ませんでした。

気難しい方でなかなか心を開いていただけず対応に苦慮したが、看護、介護、リハの職員がチームとして協働して、あきらめずに代わる代わる親身に声掛けしたことで、入所から2週間程経った頃から車椅子の自操を行ったり、離床時間が徐々に増えていきました。奥様にご協力をお願いし、家庭菜園の雑誌を差し入れていただくとその雑誌を見ながら職員に「これは虫がつくからちゃんと手入れしないといけないんだ」など畑仕事の知識を教えていただくなど、大好きな畑仕事の話をするときだけは目を輝かせていました。

入所1ヶ月後より尿意・便意でトイレに行きたいとの希望も聞かれ始め、リハビリと看護、介護の職員で相談しトイレ誘導を開始しました。

その後、3ヶ月程度経つ頃には仲良くしている利用者さんが体調を崩した際は、車椅子を自走して利用者さんの居室へ訪問、励ましの言葉をかけたり、普段の何気ない会話もするようになるなど積極的に交流されるようになり、入所当初には見られなかった笑顔も見られるようになりました。

趣味だった畑仕事をしおんでやっていただくことでより明るくなっていただこうと思い、しおんガーデンに花

の球根を植える作業を行なっていただいた際には、満面の笑顔を見せていただきました。

利用者さんにはこれから、もっとしおんでの生活が楽しいと思ってもらえるように日々寄り添いながら支援していきたいと思えます。